

## 平成26年度 系国際交流支援費申請書

代表者氏名	溝上智恵子	配分希望額 (千円)	50万円
連携先	Faculty of Education, The University of British Columbia (UBC) ブリティッシュ・コロンビア大学教育学部		
提案組織 (代表者及び共同研究者)			
氏名	所属・職	役割分担	
溝上智恵子	図書館情報メディア系・教授	日系カナダ人史にかかる学習教材指導法研究 (総括)	
David Anderson	Professor, Faculty of Education, UBC	日系カナダ人史にかかる学習教材指導法研究 (博物館と学校との連携)	
目的、系として期待される効果			
<p>第二次大戦中に強制収容された日系カナダ人の歴史は、日系人が多いカナダ・ブリティッシュコロンビア州においては、学校教育で必ず学習する事項である。ついては、本申請研究では、収容先のこどもの生活を事例に、歴史教育における教材と学習指導法の現状と課題を明らかにする。共同研究者の Anderson 教授は博物館教育を専門とし、MLA 連携に造詣が深い。また、2014年度の溝上の UBC 滞在中の受け入れ教員でもある。</p> <p>教材の選定や学習指導にあたって、カナダでは博物館や図書館資料の利用が不可欠であるため、本研究を通じて、カナダにおける MLA 連携の実態をも明らかにすることができるので、本系にとっても、きわめて有益な情報が得られる。</p>			
過去のプロジェクト研究費実績 (年度・支援額・成果など)			
<p>○ 2013 年度・国際交流支援経費 School of Library, Archival and Information Studies, UBC・1,000 千円・研究代表者水嶋英治教授 (溝上智恵子共同研究者)・研究成果: 2013 年 9 月に UBC へ水嶋教授とともに訪問し、図書館情報メディア系および図書館情報メディア研究科との交流内容の具体化にむけて交渉を開始した。さらに 2014 年 3 月には UBC の Rasmussen 教授を招聘し、知的コミュニティ基盤研究センターにおいてシンポジウムを開催した。</p> <p>○ 2011 年度・系プロジェクト経費 (高齢社会における公共図書館のシニア・サービス)・700 千円・研究代表者綿抜豊昭教授 (溝上智恵子、呑海沙織分担者)・研究成果: 以下のとおりで</p>			

ある。

- (1) 溝上智恵子、呑海沙織、綿拔豊昭編著『高齢社会につなぐ図書館の役割：高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み』学文社、2012年、168p.
- (2) Saori Donkai and Chieko Mizoue. "Library service in the ageing society: Developing Japan's new library service". The 1<sup>st</sup> International Conference on Global Aging Tsukuba. 2014/1/24.
- (3) Saori Donkai and Chieko Mizoue. "The Public Library in an Aging Society: Developing Active Library Participation in Japan". *Library and Information Science Research in Asia-Oceania: Theory and Practice*. IGI Global, 2014, pp.266-283.
- (4) 呑海沙織、志賀渉、溝上智恵子. 「公共図書館における高齢者サービスの現状」日本図書館情報学会春季研究集会口頭発表、2014年5月24日。
- (5) (1) の韓国語翻訳出版、2014年4月1日。

実施計画 (共同研究者がいる場合には、個々の役割や費用の根拠が明確になるように記載)

(1) 2014年8月より申請者溝上が、UBC に滞在し、UBC 大学図書館、ブリティッシュ・コロンビア州博物館、ブリティッシュ・コロンビア州文書館、バンクーバー公共図書館、カナダ国立図書館・文書館、国立歴史博物館、国立戦争博物館等において、第二次世界大戦中の日系カナダ人のこどもの生活に関する資料および現行の歴史教育における教材や学習指導法に関する情報を収集、分析する。

(2) 収集した資料や情報をもとに新たな学習方法について、共同研究者とともに検討のうえ、MLA 連携の視点をふまえ、研究内容をまとめる。なお、本申請の共同研究者としてはあげていないが、UBC における溝上の受け入れ教員の1人である Penny Clark 教授は、カナダを代表する歴史教育研究の第一人者であり、滞在中におこなう彼女との意見交換は、日系カナダ人教育の研究にとってはきわめて有益になると思われる。

(3) 申請経費は、溝上のカナダ滞在費とオタワへの国内移動旅費の一部を予定している。